

直面する厳しい企業経営 STEP 4 町の水道事業会計の現状と課題

全てを支える水道料金。



2万5千人が年間
290万8千ℓ使用

わが家までの水の流れ。前のページでお分りいただけましたでしょうか。平成18年度の町内給水区域（地域水道除く）の人口は2万4千884人で、9千172世帯。年間290万7千955ℓもの水が使われています。1日に7千967ℓ、1人あたり毎日320ℓの水を使うこととなります。

蛇口をひねれば簡単に出る水ですが、それをつくり、各家庭に送り届けるまでには、たくさんの労力と設備や施設が費やされています。それらをまかない、支えているのは、みなさんから支払われる水道料金です。

2千万円繰り入れ 経営は実質的赤字。

福智町の水道事業は、旧町の水道事業を合併と同時に廃止して

新たに発足した福智町唯一の公営企業です。地方公共団体における公営企業の経費は「税金」ではなく、利用者の負担する「料金」によってまかなわれることが定められています。その会計は独立採算性をとることが原則で、町の一般会計とは区別した「企業会計」による経営が行われています。

その水道事業の経営状況ですが、平成18年度の決算では、5億7千433万円の収入に対し、支出が5億6千558万円、差引で875万円の黒字となっています。しかし、これは町の一般会計から2千万円を繰り入れた結果で、単純に考えると1千125万円の赤字ということになります。

合併時の値下げで 6千万円の収入減

ところで、みなさんは福智町になって水道料金が少なくなったことにお気づきでしょうか。旧町ごとにバラバラだった水道料金を合併時に統合し、利用者の負担がなるべく低くなるように料金設定が調整されました。

そこで、一般会帯で最も多い、13mm口径（家庭用）メーターの基本料金で、水道を20ℓ使った場合の料金を福智町と旧町と比較すると、次の表のようになります。

13mm口径メーターの基本料金でひと月に20ℓの水道を使用した場合

町名	基本料金 81料金は☆	量水器使用料	超過料金 11255円	計 4,270円	福智町との月差額	福智町との年差額
福智町	1,210円	0円	3,060円	4,270円		
旧赤池町	1,210円	0円	3,300円	4,510円	240円	2,880円
旧金田町	2,050円	120円	2,400円	4,570円	300円	3,600円
旧方城町	1,390円	0円	3,780円	5,170円	900円	10,800円

福智町と旧町の比較で合併協議の試算では年間6,000万円の水道料金減額



つくられた水の18%がもれている。

家庭への水は、網の目のようにはりめぐらされた水道管で給水されていますが、漏水などにより、浄水量と販売水量を比較した福智町の有水量は、81・9%と低くなっています。言い換えれば18・1%の水がどこかで漏れていることになります。（漏水のほかにもメーターが壊れていることや配管ミス、不正



料金のお支払いは
便利な口座振替を。

水道料金は、検針員が水道メーターで検針し、使用量に応じた料金を毎月郵送で請求しています。検針表には「検針日までの使用量」「請求金額」「口座振替での納付者」を振替金額を表示していますのでご確認ください。

水道料金は、本庁、各支所で直接支払うことができますが、銀行や



↑検針員が毎月メーターを確認して料金を請求しています。前月比の差が大幅に違う場合は、職員が再検針します。

郵便局などの口座振替でもお支払いいただけます。口座振替は支払い記録が預金通帳で確認できますし、納め忘れもなく便利で確実に安全です。

口座振替の申請書は、水道課と各支所に準備しています。またご連絡をいただければ申請書を送付しますので、お気軽に水道課までお問い合わせください。水道料金のお支払いは、安全で便利な口座振替をぜひご利用ください。

WATER PICK UP

家庭で漏水チェックを

家庭での漏水は量水器までが水道課の管理で、それから先は使用者の管理となります。漏水した方も水道料金に加算されますので「おかしいな」と思ったかたはぜひ一度、漏水調査を行ってみてください。

家庭での漏水チェック方法

メーターボックスの中には「メーター器」と「止水栓」があります。



家の中の蛇口をすべて閉めます



その状態でメーター器の円盤が動いている⇒正常なら動きません！

止水栓を閉めます



その状態で蛇口を開けると水が出る⇒正常なら水は出ません！

もし、いずれかに該当しましたら「漏水」もしくは「配管ミス」が考えられます。その場合は水道課（☎22-7769）までご連絡いただければ漏水調査を行います。ただし、修理費用は自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。

この料金設定により、合併協議では年間6千万円の水道料金が減額するという試算がなされました。

平成18年度決算では、一般会計から2千万円を繰り入れて875万円の黒字ですから、この収入の減額分6千万円を考慮すると、合併効果により、4千875万円のスケールメリットがでたこととなります。しかし、この一般会計からの繰り入れはあくまでも暫定的な措置で、長期間は見込まれません。現在、設備の老朽化や旧町施設との連結など、さまざまな課題を抱えている町の水道事業は、たいへん厳しい経営を迫られています。